



星槎スポーツ新聞

第12号 ★ 2017年7月5日(水)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

第6回 関東高等学校 女子サッカー大会 大会2連覇

園陸上競技場



6月3日より関東高等学校女子サッカー大会が埼玉県で行われた。出発時には湘南学習センターの生徒から激励を受け埼玉に向かった。初戦は熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で試合が行われた。試合開始から自分たちのペースで

サッカーをしていた選手たち。前半から相手のゴールに向かい、シュートをものにするのができていた。中盤での関わりが薄く感じられながらも守備陣からの攻撃参加に力強さがあった。この試合では交代選手の出場もあり、控えの選手がプレーをしているときには気持ち表れているように見

受けられた。新メンバーの選手は県予選に比べて、周りの選手たちとの息が合ってきているように感じられた。神奈川県から応援に駆けつけてくれた高校生、中学生さらに星槎国際高等学校女子サッカー部OGの大きな声援のおかげで選手たちの気持ちもさらに高まり、試合終了の笛



満面の笑みで喜ぶ選手たち

関東高等学校女子サッカー大会 結果

- ◆ 第1回戦 宇都宮文星女子高等学校 3-0
@熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
- ◆ 第2回戦 日本航空高等学校 2-0
@くまびあ
- ◆ 準決勝 前橋育英高等学校 2-0
@熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

が鳴った時には3対0という結果で終わることができた。
インターハイ出場をかけた戦い
関東大会2日目の対戦相手は日本航空高等学校。2年前のインターハイ関東予選で負けた相手だ。この試合がリベンジ戦となり選手たちはより一層気合が入っていた。相手の攻撃枚数が1人であり、守備陣の層を固められている状態。そういった中でも選手たちは相手の守備を破ろうと必死だ。しかし、選手たちの判断スピードが遅くなってしまい、ゴールを打開することができなかった。
日本航空高等学校にゴールを破られそうになったものの、星槎国際高等学校の守備陣が身体を張ったプレーを展開し、得点を与えない。互いに必死の攻防が続くも、結果として星槎国際高等学校が2得点を挙げることができた。連日に渡り、中学生、高校生やOGが応援に駆けつけてくれた。2日目の試合会場でも多くの人がくまびあまで足を運んでくれていた。



ゴールを狙う選手たち

大会2連覇をかけた戦い

3日目の決勝戦。疲労が溜まった中で試合だった。去年同様、前橋育英高等学校と1位争いをすることになった。晴天の中で行われることになった試合。平日ではありながらも、多くの方が会場に足を運んでくれた。試合前の選手たちの表情はリラックスしている様子が見られた。試合では攻撃陣のゴールへ向かう姿勢、守備陣の身体を張ったプレーから全員が「勝ちたい」という気持ちでプレーに現れていた。相手の守備に苦戦するも、前半からシュートチャンス逃さずにゴールをあげ、自分たちの流れの中で試合ができた。

最終戦は2対0で勝利をものにした。関東大会2連覇という史上初の快挙を成し遂げた瞬間でもあった。

宮澤ひなた U-19 日本女子代表に選出 加藤もも U-16 日本女子代表に選出

柄澤俊介監督からの激励メッセージ

宮澤ひなた選手へ

U19という2つ上の選手がいるカテゴリーに選ばれたことは大変名誉なことだと思います。どれだけ人のサポートを受けてそのピッチに立てるのかしっかりと考えてプレーしてほしい。

加藤もも選手へ

間もなくアジア予選が始まります。代表に残るためのプレーをするのではなく自分の持ち味を出すことに専念をし、一つのキャンプで悔いのない活動をしてほしい。

二人に共通して言えることは星槎の3つの約束をオンオフの立ちふるまいで体現し、世界に発信してきて欲しい。

宮澤ひなたさんに聞いてみた

▼レベルアップしなければならぬと思ったことは？

日本代表になり海外の選手と試合をすることが増えた。たくさんの方が試合をするたびに、相手の迫力や球際の強さ、勝



加藤もも (インハイ県予選)



宮澤ひなた (インハイ県予選)

ちたいと思う気持ちがある。このままでは相手を圧倒して勝つことはできない。勝つために個人としてはヘディング、体感、フィジカルの強さ、シュートの精度。まだまだたくさん努力をし、レベルアップしなければならぬと思う。そして絶対勝つという強い気持ちを誰よりも強く持ち、それをピッチで体現することが必要だと思った。そのためには1日1日の練習を大切にしなければならぬ。途中で投げださず、より高みの目標に向かって、1日でも早くまでしてジャパンに入れるように毎日練習に励みたい。

▼星槎国際湘南での活動にこの経験をどう活かしますか？
日本代表という経験はしたくてもできない人がたくさんいる。だからこそ国、たくさんの方の思いを背負って戦うということを忘れてはいけない。プライドや責任感を強く持たなければならぬ。自分が経験してきたことを自チームに持ち帰りプレーだけでなく声かけや日ごろの行動でチーム全体に浸透させる。自チームではキャプテンとしてしっかりチームをまとめ、今年こそ日本一をとりにつく。星槎のサッカーをもっとたくさんの方に覚えてもらい、多くの人に感動と笑顔を与えられるようなチームを作っていきたい。

未来に向けて スポーツを超え

エリトリア、さらなる関係強化へ！

2017年5月24日、星槎グループ会長の宮澤保夫氏はエリトリア国政府より正式に招待され、同国の第26回独立記念式典に出席した。今回のエリトリア訪問には星槎グループの創作和太鼓チーム「打鼓音」も同行、独立記念週間の行事の一環として首都アスマラの各所で3回の公演を行い、エリトリアの人々から大きな歓声と拍手を受けた。

滞在中、宮澤氏は連日エリトリア・オリンピック委員会等、関係各機関との充実した協議を行い、5月26日にはイサイアス大統領と個人的に面会し今後の協働について話し合った。5月27日には、今年2月に来日した文化スポーツ庁長官のセメデ・テクレ氏と、「エリトリア・日本友好協会」の設立に

関するMOU(覚書)を締結。今後、両国のさらなる関係発展へ向け、協働を進めてゆく。

同時期には東京品川にあるエリトリア大使館が主催する第26回独立記念写真展が開催され、同国から星槎国際高等学校へ留学中のデシェン君、アヌル君、そして星槎道都大学へ留学したヤレド・アスメロン選手も駆けつけ、祖国の記念日を日本から祝福した。この写真展は今後神奈川県を巡回し、6月に小田原市役所、7月には大磯町の学校および町役場で開催される予定で、星槎グループ、世界子ども財団でも後援および開催の支援を行っている。

メトペマ杯フットサル大会開催！ 「多くの経験を積むことで、大輪の花を咲かす」

6月7日、15校18チームが集い、メトペマ杯が星槎湘南スタジアムで開催された。開会式では井上一理事より「メトペマ(蓮の花)は泥水が濃い分だけ大輪の花を咲かす。だからこそ様々な交流を通じて多くの経験を積んでほしい」との言葉をいただいた。選手たちは敗者復活戦の導入や職員チームの参加、女子・中学生初心者を対象としたエンジョイリーグの開催などで交流を深めた。

山梨県甲府市にある星槎甲府キャンパスから10名が参加した。惜しくも決勝トーナメント2回戦で敗退したが、来年につながる熱い戦いだった。決勝戦は星槎学園湘南

校VS職員チームとなった。湘南校が先制するも職員チームの経験の多さには勝てずその後逆転を許した。選手は悔しさをのぞかせた。ゴールキーパーを務めた小澤綾斗君は「先生たちは言葉に出さずとも互いの動きをイメージできていた。まだそこが自分たちには足りない部分。日々の練習で仲間と心を通わす努力をし、来年こそは優勝をつかみたい。」



メトペマ杯選手宣誓

ブータン陸上競技 中長距離 集中トレーニングを支援！

2017年4月に2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた事前キャンプ協定を神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、そして星槎グループと締結したブータン王国。ブータンでも2020年、さらには未来へ向けたスポーツを通じた星槎グループの支援活動が着実に進んでいる。2017年5月には陸上競技コーチの田中由一氏を約2週間にわたり派遣し、現地でのナショナルチームの選手養成を支援した。中長距離選手23名に対し科学的根拠にもとづくトレーニング方法やスケジュールを伝え、10日間の強化トレーニングを実施。さらに学校の教師やスポーツ指導者に対するコーチングクリニックも開催した。田中氏は言葉や文化の壁をものともせず、豊富な知識と経験、そして情熱をもってブータンの人々に接した。トレーニングやクリニックは大成功で、参加したブータンのアスリート、指導者とも、皆が田中コーチに「またブータンに戻ってきてほしい」と話している。もちろん、田中コーチの現地指導を含め、星槎のスポーツを通じた国際支援・交流活動は1回で終わるものではなく、今後もますますプログラムを充実させていく。

氷上に躍動するアスリート & アーキテクト

星槎道都大学 美術学部 建築学科1年 三浦芽依さん



「氷上の格闘技」と呼ばれるアイスホッケーの日本女子代表チーム。2017年2月に、平昌オリンピック(2018年開催)出場を決めた、そのチームは「スマイルジャパン」と呼ばれる。現在、オリンピックチーム候補合宿が行われているが、その中に星槎道都大学建築学科1年の三浦芽依さん(苫小牧東高出身)がいる。

お姉さんの影響でアイスホッケーを始めた彼女

高校総体男子サッカー 真の「卓越した闘争心」を目指して

関東大会の予選を創部のベスト8で終え、慢心することなく切り替えて練習してきた星槎国際湘南サッカー部のインターハイ出場を賭けた闘いが始まった。

1回戦はシードにより2回戦からとなった6月4日(日)の初戦の相手は湘南高校。県内トップクラスの進学校だ。集中力の高い相手に対し、星槎国際湘南も気迫を持ったプレーを継続し、勝利を目指した。前半24分、中盤でセカンドボールをそのままシュートされ、40メートル近いロングシュートを決められる。しかし、直後にチャンスからコーナーキックを獲得。そのコーナーキックを、MF齋藤美裕(3年)が頭で合わせ同点ゴール。後半、仲



闘いに挑むイレブン

が、GK佐野穂高(3年)がしっかりキャッチ。前半11分にはMF重松寛太(3年)が相手陣内でボールを奪い、遠目からシュートを打つがキーパー正面。前半24分、自陣でのMF重松寛太(3年)のフリーキックからDF山田龍二(3年)が合わせようとしたが惜しくも触れず得点にはならず。なかなか決めきれない試合展開の中、前半終了間際相手にフリーキックを与えるが相手のキックミスにより無失点のまま前半終了。相手の特徴を運動量、連動性で消している星槎のゲーム展開となっていた。

後半6分、右サイドから攻められあわや失点のシーンをDF山田龍二(3年)が守りきった。後半9分、前半相手とバツティングし、頭部を切り止血しながら闘っていたMF松村亜弥(3年)とMF渡辺尋大(3年)を交代。後半25分にはMF重松寛太(3年)からのスルーパスにMF齋藤美裕(3年)がシュートを打つがキーパー正面。チャンスを逃す。後半26分MF柏木耶汰(2年)とMF山岸海斗(3年)。後半33分FW佐藤慶太(3年)とFW藤浦涼丞(1年)に代え、活性化をはかる。攻めの姿勢を貫き、得点のにおいがしてきたなか悲劇は訪れた。アディショナルタイムに突入した後半42分、相手が斜

めから裏へボールを出したクロスボールをヘディングで合わせられ失点してしまう。万事休す。そのままタイムアップし、アディショナルタイムの失点に涙を吞んだ。昨年度インターハイ出場校に対し、堂々とした闘いぶりをみせた選手たちに大きな拍手と歓声で会場が包まれた。

星槎国際湘南サッカー部がスローガンに掲げる、「卓越した闘争心」。仲間を想い、共感性を発揮し補い合い、チームの為に汗をかき勝利を目指す。その先、その過程に待ち受ける困難を勇気と笑顔で立ち向かう。真の「卓越した闘争心」を目指し、全国の星槎グループを代表して闘う集団となる為、星槎国際湘南サッカー部はリスタートをきる。



勝利を信じ応援する仲間たち

セイスポ

第99回 全国高等学校野球大会 神奈川大会

目指せ夢の頂点



第99回全国高等学校野球大会神奈川大会が7月8日に開幕する。その組み合わせ抽選会が6月10日に横浜市内で行われた。189校が参加する全国屈指の激戦区。この大会を勝ち抜き、甲子園初出場を目指す。

春季神奈川大会ベスト4の星槎国際湘南は2回戦からの出場で上矢部高校と厚木高校の勝者と7月16日にサテライトフォー保土ヶ谷球場で対戦する。

目指せ夢の頂点

星槎国際湘南野球部長 塩谷 貴男

初の第1シードで挑む星槎国際湘南は、16日(日)11時より保土ヶ谷球場にて上矢部VS厚木の勝者と二回戦で対戦する。同じブロックには、日大、橘学苑、立花学園、横浜創学館、鎌倉学園など有力校

が揃った。現チームは、土屋監督就任3年目の集大成のチームであり、秋の県ベスト8、春の県ベスト4と一歩ずつ着実に力を付けてきた。最後の夏は、『必笑』のスローガンの下、神奈川制覇を果たし、『甲子園初出場』を狙っている。秋、春の両大会とも横浜高校に敗れており、選手たちは『打倒！横浜』を合言葉に60名の部員全員で最後の猛練習に取り組んでいる。エースの本田投手を中心にディフェンスを固め、ロースコアで逃げ切るのが星槎の勝ちパターン。夏は、ハイスコアの戦いが予想される。そのためにも、不利な状況になっても最後まであきらめずに戦う強いメンタルを身につけなくては夢の頂点には届かない。夏の大会は、『3年生のための大会』と言われている。

17名の3年生全員が心を一つにして本気になれるかが勝負の分かれ目だ。チームの勝利のためには何をすれば良いのかを各自考え、最後の夏を迎えて欲しい。高校野球生活最後の夏。3年生には悔いを残さず、自分が持っている力を発揮することを願っている。



シート打撃練習

VOICE

主将 金子幹太(3年)

夏の組み合わせが決まり、いよいよ夏が始まるという実感が湧いてきた。今年はチームとして創部初の第1シードとして臨む夏の大会。この夏、自分たちは周りからは追われる立場となるが、追われる立場ということは意識せずに常に挑戦者の気持ちで、目の前の相手に全力で戦っていく。

第1シードとしての意地を見せ、一つずつ勝ち進み、この激戦区、神奈川で頂点に立ち甲子園に出場することが1番の目標だ。土屋監督を星槎として初めて神奈川で男にするためにチーム全員で頑張っていく。

このチームのスローガンである『必笑』。この言

葉には、練習で泣き、試合で笑うという意味が込められている。このチームのスローガンを達成すべく、どんな形であろうと突って終われるようにこの夏、全力で戦いぬく。見に来てくださる方々に勇気と感動を与えられるようなプレーをする。夏の大会、応援よろしくお祈りします。

マネジャー 三浦康太(3年)

第99回全国高等学校野球選手権神奈川大会、その2桁最後となる大会で私たちが星槎野球部は、秋、春に続き夏にもう1度歴史を塗り替える。そう確信をしたのは抽選会の時だ。春の大会でベスト4という成績を残した結果、東海大相模、横浜高校、桐光学園と並び第1シード権を獲得し各

プロットの四つ角に入ってきた。私たちのプロットにどの学校が入るかを待つ形だ。どこが来るかという緊張感と期待が膨らむ中、主将の金子と結果を待った。結果は、ベスト16までは公立高校としか当たらず、第2、第3シード校を含めても現戦力を考えると、油断せずに普段どおりの戦いができればプロットを制することが出来る。エースの本田以外に、3年の佐野や2年の石橋をはじめとする投手陣、二塁への送球1.9秒の捕手田島や、走攻守バランスの取れた小倉や有賀などの中心選手に加えて1年生も力を付けてきている。練習試合でも攻守に渡り活躍を見せる中でメンバー競争により、春よりも個々の力が上がり選手層も厚くなった。結果、春の大会の時よ

キャッチャー 田島大輔(3年)

このトーナメント表を見て星槎は準々決勝まで私立高校との対戦がなく、5回戦まで全て公立高校が相手だ。しかし、初戦にあたる可能性がある上矢部高校とは前回の練習試合で負けている相手だ。その為、どの高校であっても油断はできない。

また、同じブロックには春季県大会で優勝した東海大相模、逆のプロットには春季県大会の準決勝で自分たちが完敗した横浜高校がいる。自分たちの目標は神奈川の全ての高校の頂点に立ち、甲子園に

出場することだ。そのためには昨年の秋季県大会、今年の春季県大会で完敗した横浜高校を倒さなければならぬ。だからこそ、必ず決勝戦まで行き横浜高校を倒したい。

しかし、目先のことはあまり考えずまずは一戦一戦勝ち抜き、チーム目標である『必笑』を達成したい。応援よろしくお祈りします。



バックホーム!

最後に全国の星槎のみなさんに笑顔を届けられるよう、1年生から3年生まで全員が全力で戦っていく。ご声援よろしくお祈りします!

サイド

一柳大地(1年)

自分たちのプロットは、第2シード、第3シードを含めても比較的良好なプロットに入った印象がある。秋、春と苦戦を強いられ、横浜高校、慶應義塾に加え、神奈川屈指の強豪校、名門校である桐光学園、桐蔭学園、藤沢翔陵などが全て別のプロットに入っているのは非常に幸運だ。だからこそ、エースである本田さんを準決勝より前にどだけ温存できるか。2枚目、3枚目の粘投をして打線の奮起が甲子園を目指す上での必須条件になってくる。

星槎国際湘南のプロットに入ってきた、公立私立を含めたすべての高校は、星槎にさえ勝てばベスト4以上を狙えるプロットだと考えているはずだ。だから一層、星槎に対してのマークが厳しくなるはずだ。そういった高校に対して、どこまで自分たちの力を出せるか。試合に出ている者だけではなく、ベンチ、スタンドと全員の力が必要だ。自分たちの野球をし、ピンチでも不利な状況でも諦めない姿勢を貫き、一戦必笑で戦えば甲子園出場の好機は必ずある。ご声援よろしくお祈りします!